

部活動活動方針の見直しについて ～いただいたご意見の反映状況～

	反映したご意見	ご意見に対応する部活動活動方針案の内容	検討中または参考とさせていただくご意見
基本的な考え方について	<p>【ガイドライン準拠について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基準は国のガイドラインにすべき（第2回A B，総合教育会議） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国のガイドライン（義務教育版）をできる限り踏まえた内容とする ◆高等学校における心身の発達や多様な教育に留意し検討する ◆高校版ガイドラインが策定された場合はそれに従う 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校についても（義務教育版）ガイドラインを原則適用すべき（第3回A B）
	<p>【市柏の特徴を踏まえた取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市立柏高校の良さを無くさない工夫を（第2回A B） ●市立柏高校を選んだ生徒、いま通っている生徒の気持ちにも配慮が必要（第2回A B） ●部活動と健康管理を両立できる検討を（第1回A B） ●部活動は自己肯定感を高めるために行われるもの（総合教育会議） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒の心身の健全な発達を守りながら、市柏の特色である部活動を維持し、生徒・保護者・地域からの期待に応じていく ◆長時間練習を見直し適切な休養を確保、バランスの取れた生活と心身の充実を目指す ◆生徒本位の部活動を確立し、一層の活性化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●市立柏高校の吹奏楽を市のブランド戦略としてきた手法の見直しが必要（総合教育会議） ●子どもたちにも丁寧な説明を（第3回A B）
	<p>【部活動全般の意識改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●量より質の活動へ（第2回A B） ●部活優先の体制を是正すべき（総合教育会議） ●勝利至上主義，強豪校だからという感覚からの脱却が必要（第2回A B，総合教育会議） ●生徒一人ひとり，顧問の意識改革から進めるべき（総合教育会議） ●生徒にガイドラインを守る理由を丁寧に説明すべき（総合教育会議） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆適度な休養が練習の質を向上させることを教え，教員もそのための指導スキルを向上させていく ◆市立柏高校の基本的な考え方を広く内外に周知し学校を挙げて推進 	
活動時間	<ul style="list-style-type: none"> ●長時間の活動を是正すべき（意見多数） ●休日の休み等が明確化されていないことは反省すべき点（総合教育会議） ●練習時間の絶対量を見直すことが必要（総合教育会議） ●活動方針に具体的な時間の設定が必要（総合教育会議） ●最低限の枠を決め，遵守しなければならない段階（総合教育会議） ●基準は国のガイドラインにすべき（再掲） ●休みが足りない，生徒の本分は勉強である（第2回A B） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆平日3時間以内 ◆週休日6時間以内 ◆特別な場合の運用として，週休日に8時間まで 	<ul style="list-style-type: none"> ●部活動のレベルにより段階を分け，活動時間や休養日を調整したらどうか（第2回A B） ●特別な場合の想定（例外）は，本来の決まりをないがしろにすることもある（第2回A B） ●活動に理由を示し，見える化すること（第2回A B） ●教員の労働時間はどのように整理されているのか（第3回A B） ●繁忙期（特別な場合）が危険なのではないか（第3回A B）
休養日	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒に説明できる練習時間と内容にすべき（第2回A B） ●毎日決まった時間ではなく総時間で管理する柔軟な方法もある（第2回A B） ●時間の管理が大事，自分で自分を管理する発想へ（第2回A B） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆平日1日/週以上 ◆週休日2日/月以上 ◆年間100日以上（テスト期間中の部活動停止日数を含む。） ※大会前のコンディション調整が必要な場合は，校長の判断で1時間以内の活動を可とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校関係者以外でチェックする仕組みが必要（第3回A B）
その他			<ul style="list-style-type: none"> ●高校版のガイドラインはいつ出るのか（第3回A B） ●生徒本位ということの捉え方が難しい（生徒の希望通りにやらせるのではなく：多数意見）